

# 夢を追う卒業生 その12 平成30年10月4日

## 私のアメリカ留学体験記

◇今回は、宮木万里亜さん（名古屋外国語大学外国語学部英米語学科）のレポートです！

私は名古屋外国語大学外国語学部英米語学科に在籍しています。大学では主に英語のスキルを磨き、アメリカやイギリス等の英語を母国語としている国々の歴史や文化や、自分が興味をもった英語以外の外国語を選択して学んでいます。この約4年間の大学生活を通して、私の転機はアメリカへの留学だと思うので、私の話を聞いて少しでも多くの関高生の皆さんが留学に対して興味をもってくれば幸いです。

名古屋外国語大学は留学制度が充実していると聞いていたので、私は入学する前から大学生のうちに長期留学をすると決めていました。そして大学3年生の3月から11月までの約8か月間、アメリカのコロラド州デンバーにあるデンバー大学に留学しました。私はそれまで海外に行った経験が一度もなく長時間のフライトも初めてでした。またアメリカは日本に比べて治安が悪く危険な国だというイメージが強かったので、そんな場所で親元を離れて半年以上暮らすことに不安を抱かずにはいられませんでした。そしてついに出発の 때가やってきましたが、いざ当日になると不安より未知の世界に足を踏み入れるワクワクで一杯になり、見送りに来てくれた家族や友人と笑顔で別れることができました。心配していた長時間のフライトもあっという間に過ぎ、気づけばアメリカの地に降り立っていました。

私が留学先に選んだコロラド州はロッキー山脈のふもとにあるため標高が高く、空気が薄く乾燥しているという印象を受けました。空港に学校からの迎えはなかったので、私は一緒に来た仲間3人と協力して大学にたどり着かなければなりません。皆が初めての土地で戸惑いながら電車を乗り継いで向かう途中、数人の現地の方々が大学までの行き方を教えてくださり、私が想像していたよりずっと親切で優しい人たちだと安心しました。しかしせつかくの道案内も現地の方々の話す英語の速さについていけず、自分の英語力の低さに悔しい思いをしました。

なんとかたどり着いた大学寮の部屋に一人取り残された瞬間、今まで学んできた英語がほとんど使えない自分の無力さに失望し、これから8ヶ月もの間ここで暮らしていけるのかという不安が押し寄せてきて初日から大号泣しました。その日の晩、近所の中華料理屋に入ったものの、英語のメニューでどのような料理か想像することができず、食べたかったものとは違う料理が出てきてしまいました。またアメリカならではの量の多さに自分の限界と衝撃を覚えました。最初は失敗しましたが、このお店は後に留学期間中で一番多く利用したレストランとなりました。



デンバー市内 ダウンタウンの風景

そして次の日から大学でのオリエンテーションがあり、私と同じ学期から入学した生徒と初めて対面しました。私は留学生のみが学習する英語のスキルアップを目的としたプログラムを選択したので、周りはアメリカ人以外の生徒ばかりでした。特にアラブ人と中国人の割合が高く、日本人は私たち以外ほとんどいないという状況でした。オリエンテーションの中で生徒同士が話す機会があり、他国から来た生徒は私たちより英語を話すことに慣れていて積極的に会話をしていたので、早速自分だけ出遅れていると思い不安になりました。その後クラス分けのためのテストを受け、自分のレベルに合ったクラスで授業が始まりました。内容は必須の英語のリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの授業と、それぞれ何かに特化したテーマをもった授業を学期ごとに1つ選択することができました。私は3学期分のプログラムだったので、理系の内容を学ぶ授業、世の中のサービスについて学ぶ授業、演劇について学ぶ授業を選択しました。必須の英語のスキルアップを目指す授業では、クラスのレベルが上がるごとに扱う内容も難しくなりました。授業の中では、実際にインターネットに掲載されている記事を読んだり、より形式に沿った書き方でエッセイを書いたり、クラスメイトの前でスピーチやプレゼンテーションをしたり、クラスメイトとディスカッションやディベートをしたりしました。

また選択授業では校外に出かけることがあり、現地の大学の様子やアメリカの文化に直接触れることができました。1学期は大学内のエンジニア棟で3Dプリンターの見学をしたり、大学の近くにある建設途中の寮内を見学したりしました。2学期はホームレスの方々が暮らすシェルターを訪問して食事を配ったり、老人ホームにいる方々に自分の国の文化を教えたりしました。

3学期はダウンタウンの劇場でショーを観ました。最初は先生が話す聞き取りやすい英語でさえも分かりにくく、会話ができていないと感ずることがありました。また私の周りのアラブ人も中国人も母国語につられた英語を話していたので正しい発音ではないことがたまにあり、聞き取れるようになるまで苦労しました。しかし徐々にその環境に慣れて次第に周りの会話に参加できるようになり、意見交流の場で自分の意見が言えるようになりました。

元々自分の英語力に自信がなかったため、人前で意見を言うことを恐れて人の話を聞いてばかりいた私でしたが、留学を経て大きく成長することができました。さらに授業で扱う内容に沿って現地の方々との意見交流をする機会もあり、そこでアメリカの様々な制度に対して生の声を聞くことができました。私は日本でアメリカの文化を学ぶ授業を選択していたので、実際にアメリカで暮らす人々が自国の文化についてどう思っているのか聞くことができたのはとても良い経験になりました。

特に印象に残っているのは銃社会についてで、私は現地の方々には皆、護身用として銃を所持することに賛成していると思っていましたが、意外に反対している人が多くいるということがわかり驚きました。また他国の生徒がアメリカの文化や風習をどう思っているか聞くことができたことも異なる見方ができて貴重な経験だったと思います。このような様々な授業や経験を通して無事にプログラムを修了することができ、この上ない達成感を感じました。

ここまでは学校でのことが大半を占めていますが、それ以外にも学校内外両方でできた友人たちとダウンタウンにある遊園地やレストラン、ショッピングモール等へ出かけて一緒に遊びました。母国語が違くと英語で会話せざるをえないので、英語を使う最適な機会となり少しでも早く慣れる手助けになりました。またデンバーは都市なのでダウンタウンに行けば大半のものが手に入り、電車やバスを使って行ける範囲はかなり広くて便利でした。

最初は単独行動に対する不安からどこへ行くにも日本人と行動していましたが、慣れてくると近くの

ショッピングモールに一人で行くことが当たり前になっていました。他国の友人の家でご飯をご馳走になったり、逆に日本料理を振る舞ったり、お互いの国の食事を経験できたことも楽しかったです。国が違えば価値観も大きく異なるので理解できない言動やお互いに分かり合えないことが時々ありましたが、それも踏まえて受け入れることも相手を理解する上で必要だということも学び、人間的にも大きく成長しました。また学校の休暇を利用してアメリカの他の州へ行き、様々な観光地を回りました。日本から行くより手軽に複数の州へ旅行することができるので、アメリカに留学する利点の一つでもあると思います。日本にいとニュースやインターネットの情報のみで実際に他国の文化を肌で感じる機会は少ないため、現地に行ってみると想像と違って驚くと思います。私は海外に一度も行ったことがない人にこそ勇気を出して留学に行ってもらいたいと思います。



大皿にご飯とチキンがのっている料理はカプサというアラブの家庭料理。床に置いて皆でそれを囲んで、右手でつかんで食べる。食べ方を教えてもらいましたが難しかったです。アラブの料理を御馳走になったので、今度は日本人から、ハンバーグとポテトサラダとご飯をふるまいました。ムスリムの方々のために、豚肉は使わず牛肉で作りました。おいしいといってもらえてうれしかったです。